

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	神田外語大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンダガイゴダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	ビジネス・インターンシップ
	学部・研究科等名	外国語学部
	担当教職員名・役職	杉本雅視・キャリア教育センター部長
	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	50
	受入企業等数	30
	受入企業等名	https://www.kandagaigo.ac.jp/kuis/main/job/internship/
インターンシップの分類	3.海外インターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	本プログラムは「大学が自らのプログラムを創り上げる」ことにこだわり、(1)すべての研修先の訪問調査、(2)宿泊先の調査(3)ビザ手配等渡航の準備など仲介機関等に頼ることなく行った。本学の卒業生が働く企業においてインターンシップを実施することに加え、「現地日系企業の工場見学」「現地でのOBOG会の開催」を盛り込むなど特色あるものと考えている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	毎年度前期に開講される「ビジネスインターンシップⅠ(2単位)」の履修を経て、夏期休業期間中にインターンシップ研修を行い、後期に開講される「ビジネスインターンシップⅡ(2単位)」と合わせて、合計1年間の通年プログラムとなっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ開始時に、キャリア教育センターの職員が海外各国へ同行・引率し、現地企業への訪問を行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	派遣前には授業の中で研修先の企業研究等を行う他、本学のASIA地域担当コーディネーターによる事前学習を十分に行った上での派遣となる。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	授業を通して各学生による発表(プレゼンテーション)を行っている。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	研修期間中に本学の職員がそれぞれの地域において研修先・宿泊先・交通を含めた現地調査を行う他、参加者全員に連絡が取れる携帯等を持たせるなど24時間の連絡体制を構築する。また、本プログラム期間中においては現地で活躍する本学卒業生がすべての国・地域において活躍していることから、研修期間中を通して卒業生が学生の相談に乗れる体制を整える。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	参加学生については研修前に全員が「インターンシップ受講願」を作成し本研修参加の志望理由について記載することで、派遣前の意識を把握できるようにする。プログラム期間中は毎日報告書(日誌)を作成し、研修先企業からコメントを頂き、研修終了後に大学に提出することで自己意識の変化の把握を行う。更に後期授業では研修成果についてプレゼンテーションを行うことで、研修参加前後の意識変化の自己把握を図るものとする。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間14～21日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	海外各国への滞在期間は2～3週間となり、うち月曜日～金曜日を実習日としている。休日(土曜日・日曜日)には、現地企業の工場見学を実施したり、本学卒業生や教職員を招いての同窓会を実施するなど、特色あるプログラムを盛り込んでいる。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にととの意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	プログラム期間中は毎日報告書(日誌)を作成し、研修先企業からコメントを頂き、研修終了後に大学に提出することで、自己意識の変化の把握を行っている。企業の方には「評価シート」の記入も頂き、社会人基礎力に照らした学生への5段階評価を頂いている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	「別途提出済み」※ウェブサイトは学内関係者のみ閲覧可のため。
問い合わせ先	大学等名	神田外語大学
	担当部署名	キャリア教育センター
	担当者役職名	主任
	担当者氏名	吉野弘樹
	電話番号	043-273-1598
	メールアドレス	syusyoku@ml.kuis.ac.jp